

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和元年
12月

きらびやかなイルミネーションが街を彩る季節となりました。皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第22回配信です！ どうぞお楽しみください。

<診療科紹介 移植外科>

学生の皆さん、こんにちは。

自治医科大学移植外科についてご紹介します。我々は2001年より小児を中心とした肝移植を開始し、2019年までに300例を超える肝移植を実施しました。肝移植症例数が300例を超える施設は全国で10施設ですが、小児肝移植数では京都大学、国立成育医療研究センターに次いで3番目となります。また移植後15年生存率は95%と良好な成績であり、東日本のハイボリュームセンターとしてその役割を果たしています。また2016年以降、肝移植の需要増大に伴い、成人肝移植も始めております。

当科では2回/月（水曜日）の小児・成人生体肝移植と緊急の脳死肝移植を行っております。「肝移植手術について興味はあるけどイメージが湧かない」、「肝移植を一回みてみたい」など肝移植手術に興味がある方は是非一度見学にいらっしゃって下さい。手術日程がありますので、見学を希望される場合は事前にご連絡をください。また肝移植手術はときに12時間を超える長時間手術となることがあります。途中までの見学でも構いませんので、お問い合わせ下さい。

連絡先

佐久間康成教授 naruchan@jichi.ac.jp

岡田憲樹（医局員） r0906no@jichi.ac.jp

医局 0285-58-7069

自治医科大学消化器一般移植外科



後列左より 薬剤師：大柿、移植コーディネーター：藤原・吉田、医師：山田、眞田、佐久間診療科長、大西、秘書：小林
前列左より 薬剤師：大友、医師：大豆生田、平田、宮原、岡田

2019年4月とちぎこども医療センター前撮影

【医師国家試験予想問題】

問1 肝移植の適応にならないのはどれか。

- a 肝細胞癌
- b 胆管細胞癌
- c 胆道閉鎖症
- d C型肝硬変
- e アルコール性肝硬変

正解 b

解説

○a 肝細胞癌は個数と大きさの制限があるが、肝移植の適応である。

×b 胆管細胞癌は肝移植後転移・再発のリスクが高く、現時点では肝移植の適応となっていない。

○c 胆道閉鎖症による肝硬変は肝移植のよい適応である。

○d C型肝硬変は肝移植の適応である。

○e アルコール性肝硬変も断酒期間（生体6か月、脳死18か月）を証明し生涯断酒を宣言すれば肝移植を受けることができる。

問2 臓器移植について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 近年、脳死臓器提供数は増加している。
- b 脳死臓器提供で親族への優先提供が認められている。
- c 小児の患者は脳死と判定されても、臓器提供はできない。
- d 本人の意思表示がない場合、遺族のみの同意で脳死臓器提供ができる。
- e ニュルンベルク宣言では自国民の移植臓器は自国で確保すべきとしている。

正解 a、b、d

解説

×c 小児の患者においても遺族の同意があれば臓器提供が可能である。

×e ニュルンベルク宣言→イスタンブール宣言が正しい。